

# 序

本書は、感染症診療の基本を学びたい学生、研修医向けの入門書として執筆した。また現場で研修医を指導する立場の指導医の先生向けにも、指導の参考書となれば幸いである。感染症の診療では、「抗菌薬」「感染症の疾患」「微生物」の3つの柱を中心に学習することが必要であるが、本書は、そのうちの「抗菌薬」という切り口で展開している。

国内には、非常にたくさんの抗菌薬があり、「どれを」「どうやって」「どのようなときに」使用したらよいのか、よくわからない、と感じる研修医も多いと推測している。そのような「混乱」を抜け出し、少ない数の抗菌薬を早期にマスターすることで、研修早期の段階から適切な抗菌薬使用の大枠をつかむことを大きな目標とした。

本書では、多忙な読者が短時間で、抗菌薬の基本的なことを修得できるように配慮した。臨床現場にはじめて立ち、実際に患者ケアにあたる初心者が、抗菌薬について、最低限知っておいてほしいことを厳選した内容にしている。また、筆者が感染症の専門医として、臨床上のポイントであると考ええる点については、できるだけ納めるようにした。本書でカバーしきれない個々の詳細な部分については、成書での確認や参照を行っていただきたい。

抗菌薬は、だれでも原則を理解すれば、安全に、適正に使用できるようになる。本書が、臨床医学の初心者にとり、抗菌薬への入り口、つまり、「はじめの一步」になれば幸いである。

最後に、本書の執筆にあたっては、自治医科大学の関係者の皆様のご理解とご協力で深い感謝の意を表したい。また、本書の企画を下さり、私の希望をできるかぎり取り入れてくださった羊土社の杉田真以子様、高橋紀子様のご尽力に厚く御礼を申し上げたい。

そして、常に前向きに、私の仕事を理解しサポートしてくれている夫 矢野修司、そして故きわが子、いちこに本書を捧ぐ。

2010年2月

矢野晴美